

イルミネーションのメンテナンス費用

1. 光源（電球）の消耗について

イルミネーションは、ほとんどすべてが光源でできています。すなわち、すべてが消耗品です。

当社にて使用する「LED ストレートライト」は、100球 / 10m、 また「LED ロープライト」は、33球 / m の光源（電球）が装着されています。現状の施工事例で、1日4時間点灯の平均的な光源の消耗率は、

施工後3ヶ月：	2%前後
施工後6ヶ月：	5%前後
施工後1年：	10%前後
施工後3年：	20%前後
施工後5年：	40%前後

となっております。

*参考までに、同条件で施工1年後、白熱球の場合は12%、蛍光灯は8%、また施工5年後では、白熱球100%、蛍光灯80%となっております。（日本メーカーも、電球類の「球切れ」について、1ヶ月以内でも保証はありません。これは、設置場所、電圧の安定性などの条件などによって寿命が大きく違うためです。）

たとえば、LED10000球の施工の場合では

施工3ヶ月後に	200球
施工6ヶ月後に	500球
施工1年後に	1000球

前後が消耗されることとなります。

弊社は施工者負担として、施工後3ヶ月以内の球切れについては、無償で球切れ部分の交換を行っております。それ以降につきましては、有償にて、交換・修理を承ります。

永続的に設置してゆく場合、常に球切れ10%以内を維持してゆくためには、その施工規模（使用しているミネーションの球数）に応じたメンテナンス費用を検討していただく必要があります。メンテナンス費用は、毎回の修理に応じてご請求させていただく方法と、1年間の契約で、月極めでご清算いただく方法があります。（ただし、施工後3ヵ年を経過したものは年間契約ができません。）

2. 会計処理

イルミネーションは、イベント用の装飾として、すべてその設置した会計年度で消耗品として償却が可能です。(照明器具などの什器備品・設備とは違い、すべて消耗品です。)ただ、実務面では3年くらい使用されることが多いため、会計士の判断で、減価償却を行うこともあります。

3. 電気装飾における維持費用の比較

イルミネーション、ネオン管、従来の白熱球などを使用した演出(電気装飾)には設置施工費用(イニシャルコスト)と維持費用(ランニングコスト)が発生します。

最近の商業施設の屋外演出照明計画では、集客効果の観点から5年以内に1度はデザインチェンジやイメージチェンジなどの設計変更を行うことが必要だといわれています。すなわち外観からの印象が、数年間かわり映えがしない施設や店舗ではサービスや商品の内容・レベルが高くて集客効果は低減されてくるといわれており、特に3年を経過した後からその傾向は顕著になってまいります。すなわち、3年間の時間経過の中で、顧客印象が、「飽き・慣れ」のため陳腐化してくると同時に、近隣に対抗店が、鮮烈な印象でオープンしてくるといった状況変化によるためであります。しかし経営的視点からコストパフォーマンスの高い演出を検討しなければ、採算として合わなくなってまいります。

これらの現状を踏まえ、屋外電気装飾について、素材、設置期間、コスト、効果、感性などを総合的に検討しなければなりません。

松下電工のデータによりますと、LEDサインを使用した場合、従来のネオンに比べ、電気消費量は約14分の1となります。

<http://www.mew.co.jp/corp/news/0606/0606-6.htm>

ネオンサインとLEDロープライトの比較表

指数にて表示

	設置費用	メンテ費用(月)	消費電力	輝度	平均寿命(入替時期)	色	工期	電源工事
ネオンサイン	100	100	100	100	10年	12色	100	難
LEDロープライト	40	70	7.2	80	4年	7色	50	易

特に消費電力に関しては、ネオンサインからLEDロープライトに変換していただくことにより、劇的に軽減することが可能です。

イルミネーション工房